



TITLE:

新刊紹介："光川ひさし"氏著 宇宙旅行

AUTHOR(S):

α

CITATION:

α. 新刊紹介："光川ひさし"氏著 宇宙旅行. 天界 1940, 20(234): 367-367

ISSUE DATE:

1940-10-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/168085>

RIGHT:

新刊紹介

“光川ひさし”氏著 宇宙旅行 東京新光社 科学文庫

いとけなき小児たちのために天文學を平易に書いたもので、著者は東京天文臺の一メンバ(但し、匿名)である。可なり面白く読ませる。しかし、小児が鵜呑みに覚えて了う書物としては、嚴密に言ふと、案外、誤りや、不注意な點が多い。下に、すぐ氣の付いた點を掲げる：

第19頁 山本一清博士の読み方は、“かずきよ”でなくて“いっせい”。

35 天文單位149504200軒は精し過ぎる。一萬軒内外は不定である。

36 地球の軌道楕圓は餘りに楕圓過ぎて、讀者を過まる。

39 寒暑の理の説明は再考を要する。

37 自轉しないとすれば？！

53 “惑星”は不可。“冥王星”は宜しい。

55 離心率などといふ高尚な觀念を説明する必要はない。

75以下 火星運河の説明は不穩當。“スキヤバレリ”は“スキヤパレリ”

79 火星の熱帯が日本の冬に似てゐるとは不當。

95 “セレス”は可。“ホンザッハ”は“フォン・ツァハ”

97 “ピアッツィ”は“ピヤッジ”

100 γ を春分點の符號とするのは不可。勿論，“ガムマ”で無い。

128 圖中の土星輪の影は誤解を起す。

215 “ベータ”、“ジータ”、“イータ”、“ユブシロン”等の読みは不統一。

209 “カस्ताー”は“カストア”とすること。

216 “アルコル”は“アルコア”とすること。

228 アルゴル星や琴座β星の變光曲線は高尚過ぎる。

230 “カシオペア”は“カシオペヤ”とすること。

232 “五味といふ人”“岡林といふ人”は餘り水臭い。日本人として、こういふ人こそ子供たちに尊敬させなければならない。

233 新星の原因として衝突説は古い。

239 “ブレアデス”は“ブレヤデス”とすること。

317 “シュトルーヴェ”は英獨混合式の發音。

注意：すべて、小児のための書物は、“小児のため”といふことで徹底しなければならない。小児にまでも“離心率”や“變光曲線”を強いることは、教育眼の無い人で、又、誰でもかまはず“學者”にしなければ承知できない人、之れは日本學者の惡趣味である。

學術語や外國人名地名の書き方に無關心、不注意なこと。之れも日本の學者の缺點である。著者自身は外國語を主として読んでゐるので、日本語を、單に“假り”のもの、“借りもの”と、軽く見てゐる。しかし、讀む小児たちは片カナ名だけしか知らないのだから、一旦“ブレアデス”と覺えたら、一生涯それで貫くことになる。又、一般に、片カナ名も立派な日本語であるべきで、決して之れは單なる發音符號でないことを深く認識すべきである。(a 生)